

## 令和3年度、第1回豊川市地域医療連携協議会議事録

日時：令和3年9月17日（金）13時30分～  
14時30分

場所：豊川市商工会議所

方法：ハイブリッド方式（会場＋オンライン）

### 1.はじめに

#### ①会長挨拶

②出席状況報告 出席者：29名（会場19名・オンライン10名）欠席者：9名

#### ③新メンバー挨拶

### 2.議題

#### ①東三河南部地域医療連携協議会報告

・地域医療連携協議会は、地域医療構想に沿って病床をどのように減らしていくかを話し合う会議であるが、答えは中々出ない。慢性期から急性期に変更していくのか、病床を減らすのか、一番の宿題である。今は、増床が許される状況ではないが、医療センターは休眠中の病床を再開し、豊橋では2つの病院が合併し回復期を作る。蒲郡の整形外科では病床はこれまでなかったが、市民病院との関係で急性期を19床持つと聞いている。

#### ②コロナ禍における医療連携・情報共有

・医師会でコロナ連携会議を発足した。医師会、市民病院、保健所、薬剤師会、歯科医師会、介護関係者、行政、看護管理者会等のメンバーが2週間に1回程度集まり、開催している。今日のメンバーの多くが参加しているが、これに関して承認して頂きたい。コロナで問題になるのは、市民病院に入院できるかどうか、患者数の増加により、保健所業務が逼迫しないか、在宅療養者、豊川グランドホテル入所者の状況等である。

・今日、配布した資料に前回のコロナ連携会議の資料がある。蒲郡のホテルに新しい療養施設が70床出来た。患者数が減少しているので今すぐには必要ないが第6波には活用されるだろうと思う。

・市民病院の患者で病状が落ち着いた方を受け入れるということで情報共有をしている。

・今は重傷者も含めて若年化しているので、転院は必要ないと豊橋市民病院では言われているが、豊川市はどのような状況にあるのか、

・20歳から50歳が中心で、重症の方は人工呼吸器やネーザルハイフローの人もいる。DMコントロールや体重が100kg前後など、合併症の方が多く、治療に日数がかかる。感染力がなくなれば、一般床に移っているが、そのような方は感染力がないので、受け入れて頂くと助かる。

・少し前は一般病床への移動を嫌う医師がいたので困っていると聞いていたが、転院できる人がいれば、リストにあげて貰えば良い。

・豊川市の医療機関で何らかのコロナ対応をするところは31医療機関あり、人口比では愛知県で一番である。名古屋市、一宮市に次いで3番目で県医師会からも認められている。豊川グランドホテルは、軽症の方のみを受け入れて40床で稼働している。当初は救急搬送することもあったが、今は落ち着いて

いる。安城、豊川、蒲郡を県医師会で、名古屋市は名古屋市医師会で対応している。イベルワクチン（家畜の寄生虫薬）の治験を宿泊施設で行うことになった。当初、カクテル療法を行う予定で申請していたが、イベルワクチンを行う為、カクテルは行わない方向となった。県内の心身障害者施設でクラスターが発生したが、カクテル療法で良くなったので効果はある。しかし投与後24時間の観察が必要になるので、どこでも出来るという話ではない。市民病院では実施しているのか、

・事例はあるが、発症からの日数や症状に制限があり、当院は中等症以上を受け入れているので適応する事例は少ない。

・藤田医科大学の岡崎医療センターでは1日の定員を8名に決めて実施している。安城の宿泊施設から患者を選定して貰っている。

・豊川市医師会では、コロナ患者の受け入れを積極的にやってくれているので、継続してやっていきたい。

・豊橋市でクラスターになっている。陽性者が1人2人出たので調べたら30人陽性者が出た。在宅関係の施設らしいが詳しいことはわからない。豊川市は電子@連絡帳に情報を出しているのによくわかるが、他市はわからない。以前あった病院のクラスターは保健所から拡大検査をしなくて良いと言われていたので、終息までに1ヶ月かかったと聞いている。

当院も外来で検査をしているが、接触したかとも言われたので調べたら陽性の人が出た。10人実施して1~2人は陽性者が出る。医師が必要と判断した場合は公費で実施出来る。

看護管理者会を充実してやってくれているが看護の力が大きい。密に情報共有しているので、看護管理者に言っただけだと動いてくれると思う。ゆくゆくはこの看護管理者会はクリニックにまで広げて情報共有出来ると良い。

・支援体制については県で作るので、それに乗るように言われている。しかしながらタイムリーな動きは望めないのでも県の方に申請しながらも会で動く必要はある。介護も看護も含めて話し合いを進めていきたい。

### 3.報告事項

#### ①退院調整担当者会の活動報告

・活動目標は顔の見える関係づくりだけでなく、無理が効くような関係づくりを目指している。

病院機能の見える化をすることやこれまで作って来たフロー図、在宅人工呼吸器のパンフレットなどを使って頂けるように又、災害に関する事は停電時の対応なども考えて行きたい。

今年度の研修は5つ計画している。災害時は医療依存度の高い患者さんの個別計画作成や福祉避難所について、認知症は旅のこぼれカードを使ってのグループワーク、事例検討会はACPを題材に行う。

講演会はPICSと心のケアを予定している。

医療・介護で行っているアンケート調査結果から、医療、介護合同研修会には毎回多くの方が参加されているが、同じ参加者が多く、関係者の6割の方が参加されていないことがわかっている。

昨年度はオンラインをメインで開催したが受講できる環境に差があることがわかっている。今年もオンラインは継続するので、受講できる環境が構築できると良い。

これまで会で作成してきた連携に関するシートは職種によって活用度に差があるが、使用されていない物はなかったので、見直しを継続する。

#### 4.まとめ

- ・地域医療連携会議は県の地域構想で病院について検討する会議だが、豊川市は先生のご尽力でいろんな部門を入れていろんなことが協議出来るようになっている。これはこれで良い事だと思うので、今後共、宜しくお願いしたい。
- ・以上で、会を終了する。